NO.706 2020　　聖イグナチオ教会報

6月

カトリック麹町教会

MAGIS

『マジス』　―　「より、もっと、さらに」

教会テーマ『勇気と寛大な心をもって出かけて行きなさい』（教皇フランシスコ）―「ミッション2030」― 新しい協働

はじめまして

協力司祭　グエン・タン・ニャー

皆さん、はじめまして、イエズス会司祭ヨセフ・グエン・タン・ニャーです。

２００９年イエズス会ベトナム管区から日本へ派遣されました。名前は長くて、発音しにくいため、いつも周りの人々に「ニャーちゃん」、「ネコちゃん」と呼ばれています（今まで日本には駅長の猫ちゃんなどいますが、司祭の猫ちゃんはいなかったですね）。

来日してから、２年間日本語を勉強させて頂きました。日本語は難しくて、丸２年勉強しても、まだまだ足りていなかったので、栄光学園のそばにあったイエズス会修道院に移動し、日本の歴史や日本の文化などを半年くらい学びました。その後、イエズス会の東京社会司牧センターで中間期生としてお手伝いさせて頂きました。ちなみに、中間期は哲学を終わった段階で会の使徒職についての体験を得るために実修することです。中間期を終えてから、神学の勉強に進みます。

２０１４年から上智大学の神学部に入学して、神学を勉強しました。２０１７年９月23日、麹町の聖イグナチオ教会で司祭叙階を受けました。２０１８年神学部を卒業した後、博士前期課程神学研究科に入り、つい最近まで学生として平日はほぼ毎日大学に通っていました。週末に司祭としてミサやゆるしの秘跡などの奉仕をしました。

今年の４月から毎週月曜日から木曜日まで社会司牧センターでの仕事をお手伝いさせて頂き、土日は聖イグナチオ教会で司祭として働くことになりました。センターでの仕事は様々ありますが、私は主に移住民に関係する仕事をやらせて頂きます。教会での仕事は若者を同伴する仕事ですが、おそらく、ベトナム人の共同体を世話するということです。

日本にはこの数年、外国人の人数が急速に増えてきました。これからも増えていくと考えています。異国での生活や仕事や勉強などはるかに難しいのです。特に、日本に住んでいる外国人には、カトリック信者が多いので、彼らは自分の国や家族から離れていても、信仰の生活を続けながら働きたいのです。彼らのために少しでも力になれば、幸いです。もちろん、私だけでは何も出来ないと分かっています。皆さんの力を借りることが出来なければ何も出来ません。実は多くの皆さんにまだ会ったことがないですが、既に皆さんに協力を求めています。それは「一杯の愛のお米プロジェクト」（３頁参照）を通して、皆さんのご支援を頂いています。この「一杯の愛のお米プロジェクト」は今日で50日間、日本にいる外国人、特に若者を支援し続けています。主任司祭英神父様の呼びかけに寛大な心を持って、応えて下さる皆さんにこの自己紹介の文書を通じて、感謝の心を申し上げたいと思います。

皆さん、これからもどうぞ、宜しくお願い致します。

教会報 MAGIS ６月号

- ミッション 2030　２頁
- ネットでも信仰共有できます！　３頁
- 特別寄稿「聖体のない日々に」　４頁
- 教会からのお知らせ　５頁
- ニコラス神父ご帰天　６頁

新しい協働に取り組むために
ミッション2030から今を生きる

英　隆一朗（主任司祭）

新型コロナウイルスのおかげで、教会活動はほぼ3か月停止し、信徒と共にミサを献げられない異常事態が続いています。緊急事態宣言の解除後も、かなり制限された活動しか再開できないでしょう。

このような状態の中で思い出したことがあります。私の赴任後、しばらくして開かれた宣教司牧評議会の集まりで、教会は行事が多くて忙しすぎる、何とかならないかという意見が出されました。実際、日頃の活動はかなり多く、評議員は本当に忙しいです。一つの案として、1年くらい全く活動を休んで、教会活動の見直しをしたらという提案が出ました。この提案について話し合いでは結論が出ず、主任司祭の判断に委ねられ、結局、すべての活動が休止されることはなかったです。それによって、教会活動の見直しの必要性が強く意識されました。それが一つの契機となり、「教会生活見直しワークショップ」が始まり、最終的に「ミッション2030」という教会の方針が確定されていったわけです。「ミッション2030」の始まりは実は1年間の休業計画だったのです。その休業計画が奇しくも今年になって実現されるような気配で、神の不思議な計らいを感じることもあります。

このような年だからこそ、教会の大方針である「ミッション2030」に基づいて、改めて私たちの教会や信仰生活を見直してみる機会にしてみましょう。今年の年間テーマは「新しい協働」です。4月号に、当初からかかわってきた小島さんに説明の記事を書いてもらいました。その中の具体的なイベントは実施できませんが、その精神を深めることは十分可能だと思います。私たちがいかに新しい意識で、共に働いていくことができるのか、見つめ直してみましょう。

まず、今までの各テーマをふりかえってみてください。①祈りを深めること、②福音を伝えること、③共同体を生きることを意識してきましたが、それぞれを今の状況に新たに当てはめてみましょう。

①教会で皆が自由に参加できるミサがない状況であるからこそ、私たちは一人ひとりが祈りを深めていく必要があります。ミサなしの生活の中で、どのように祈りを続け、信仰を生きる工夫をしているでしょうか。

②福音を伝えるというと、これは教会で入門講座をするイメージが強いかもしれませんが、入門講座を満足に開くことはできません。でも、この状況にあって、私たち一人ひとりに福音を伝える使命がなくなったわけではありません。人と直接かかわる機会が制限されている中で、どのように福音を伝えていくことができるでしょうか。

その前提として、この制限された生活の中で、どのように福音を生きていくことができるでしょうか。私たちが福音を生きていくのは、いつも今置かれている場においてです。今の状況でどのような心がけと実践が可能でしょうか。

③共同体を生きることは、最も大きなチャレンジを受けています。教会の仲間と実際に会えない中で、どのように共同体的つながりをもてるでしょうか。

このような祈り・福音・共同体を改めて捉え直していくと、私たちがどのように新しい意識で協働すればよいか、自ずと見えてくるかもしれません。

どのテーマも大きな課題ですが、今の難しい状況の中だからこそ、私たちはよりいっそうの工夫が必要です。信仰を基礎にして、そこから今の状況を積極的に生きようとする時、新しい道が見えてくるでしょう。

私自身、模索を続けますが、皆さんも知恵を絞ってください。何か面白いアイデアや実践を募集します。直接教会宛にメールか手紙でお知らせください。参考になるものは、このマジス誌上でも、順次、お知らせしていきたいと思っています。

◇

皆さんの中には、今の危機の中、何かをしたいと思っておられる方も多いでしょう。「一杯の愛のお米プロジェクト」は、協力司祭として働き始めたニャー神父が立ち上げたものです（3頁参照）。コロナウイルス蔓延で生活が困窮している特に日本国中のベトナムの人びと約千人からSOSが来ています。この方たちに、当座の食料品を援助するものです。教会に来てもらって募金を集めるのは難しいので、3頁の募金に協力をお願いします。

6月の共同祈願

今日ミサに与れない方々のために祈ります。
いつくしみ深い神は、どんな時にもどんな方にも、
いつも変わらぬ愛を与えてくださいます。
すべての人々が、豊かな恵みに満たされて、
明日への希望のうちに生きることができますように。

担当：聖堂係

当教会ニャー協力司祭が呼びかけ
「一杯の愛のお米プロジェクト」にご支援を

コロナウイルス対応の寄付支援企画「一杯の愛のお米プロジェクト」を、当教会の協力司祭に着任されたニャー神父が主宰されています。これに主任司祭の英神父やイエズス会前管区長の梶山義夫神父も協力を呼び掛けていらっしゃいます。どうぞご支援ください。

『あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい』（マタイ14：16）

現在、多くの人々がコロナウイルス感染による緊急事態宣言の影響を受けて、生活を維持できなくなっている人々が数多く出ています。今後さらに生活を送るのに困難な状況の人々が増えると予想されます。その方々の切実な要望に応えたいと思い、プロジェクトに協力することにいたしました。皆さま方もさまざまな形で苦しい状況の人々のために奉仕をしておられますが、参加してくださるようお願い申し上げます**（イエズス会社会司牧センター所長　梶山義夫）**。

▲支援物資の分配発送作業

この企画は、愛徳姉妹会のシスターたちと私が窓口になっています。日本中から申請がたくさん来ています。4月25日までに約7百人分を全国へ送りました。私たちはベトナム人の共同体に呼びかけて、お米や他の食品をたくさん持っている人々から送って頂いています。現金を寄付してくれた方々もいます。今までに送った「1人分」は、次のような内容です。

☆お米5キロ・揚げ油1リットル・ナンプラー1リットル・砂糖1キロ・ラーメン5個・マスク2枚・カップラーメン2個・お菓子、ふりかけ等、計約5千円。宅配便代は大体千5百円。合計約6千5百円。

5月2日現在、まだ3百人以上、長崎教区や広島教区で42人、大阪教区約50人、名古屋教区60人、さいたま教区40人、東京教区35人が待っている状態です。

どうかお祈りとご協力を頂ければ幸いです**（協力司祭　グエン・タン・ニャー）**。

送金送付先

＊郵便振替＝加入者名「イエズス会社会司牧センター」口座番号 00140-4-94839　※通信欄に「おこめプロジェクト」明記。送料も負担でお願いします。
＊銀行振込＝三菱ＵＦＪ銀行　東京女子医大出張所　普通 0086058
（加入者名「カトリツクイエズスカイシヤカイシボクセンター」）
＊お米や保存食（乾麺、インスタント食品、缶詰等）、調味料、衛生用品（マスク、消毒薬等）を寄付の場合、下記住所へ。送料もご負担願います。
　※衣類や生鮮食料品はお受けできません。
〒332－0012 埼玉県川口市本町２－４－15
シスターマリア・ラン「一杯の愛のお米プロジェクト」宛
◆問い合わせ先（ニャー神父）
☎ 03－5215－1844 又は 080－4208－2309

若い力が作る　新しい教会のつながり
インターネットを活用した取り組みに注目！

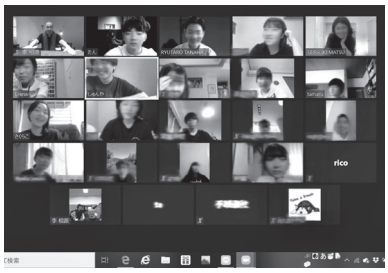
教会に集うことができない中、インターネットを活用したいろいろな取り組みが行われています。今回は、若い人たちが中心になった、2つの試みをご紹介します。

中学生会・高校生会

現在、中学生会、高校生会では月2回の頻度でインターネットを介したビデオ通話を使ってミサを行っています。教会に来ることができないこの期間。中高生がキリスト教や聖書に触れられるように、また友達と会うことができない寂しさを少しでも埋められるようにと思い、この取り組みを始めました。朗読や音楽は事前に中高生から録音を集め、編集して流しています。

離れていてもキリストを通してつながっている。苦しい、寂しい期間が続いていますが、私たちは真の意味での教会に迫れているのかもしれません。

今田大河


▲ PC 画面に李神父さまとみんなが集合

子どもとともに捧げるミサ

子どもとともに捧げるミサ配信は、子ミサスタッフが、いわゆるテレワークを駆使する事で準備をしました。ミサの曲は各自自宅で録音して編集、字幕や式次第などはビジネスコミュニケーションツールを使い、みんなで分業し意見交換して作成しました。

教会に集えず、画面越しにしか参加できないミサだからこそ、どんな人でも、よりわかりやすいミサとなるよう、典礼を丁寧に確認しながら準備しました。

会って話すことは出来なくても、現代の技術を使えば、心を通わせる事が出来る、神さまの事を分かち合う事が出来た新たな体験となりました。

北澤茂雄

▲祭壇の前にカメラをセットして中継

特別寄稿「聖体に近づけない悩みの日々に」

キリシタン信徒たちの工夫にならう

司祭・上智大学史学科教授　川村信三

この寄稿は緊急事態宣言が解除された5月25日に書いています。思えば、3月初旬から、私たちカトリック教会は「ミサ」と「聖体拝領」から遠ざかっています。歴史上、疫病が流行ったから、戦争がおこったからといって「ミサ」に行ってはならないとされた例は、皆無ではないでしょうか。

この状況は、私たちにとっての「聖体拝領」の意味を考える絶好の時と感じます。当たり前だった主日のミサに行けず、「ご聖体」に近づけない信徒は、どのような心構えを持つべきなのでしょうか。

聖体拝領の頻度、時に増減

「聖体拝領」について、今思い浮かぶテーマとして「頻繁な聖体拝領」というものがあります。頻繁すぎても尊敬を失い、稀有すぎても信仰を失う、という懸念からの真摯な議論です。

キリストの御血と御体は「命の糧」なので、「毎日(の拝領)」という考え方が、初代教会からあったようです。初代教会の教父、聖ユスティノスやディダケー(十二使徒の教訓)の作者など、初代キリスト教徒たちは「主の日」に拝領するのが好ましいと考えていました。3、4世紀の教父たちも同じ意見でした。教会博士の聖アウグスチヌスは毎日聖体拝領を望むものが非難されることはないが、主日ごとが理想的だといっています。つまり、主日ごとの聖体拝領の勧めは古代教父以来の伝統と習慣に基づくものだということです。

中世、すなわちカロリング朝崩壊以後、拝領の頻度が激減したといわれています。おそらく畏敬の念が強調されすぎたのでしょう。1215年の第四ラテラノ公会議では、少なくとも年に一度という規定が「ゆるしの秘跡」とともに言及されました。その後、年に6回、15回などと定める修道院や団体もありましたが、聖イグナチオ・デ・ロヨラや聖フィリッポ・ネリが活躍した16世紀には、週一度が強く勧められるに至りました。17世紀のヤンセニスト(異端とされた厳格派)は、まったく逆の態度で、徹底的な悔い改めなしには拝領を許さず、数年に一度、一生に数度という極端な例もあったといいます。

つまり、「聖体拝領」の頻度は、教会史上、時代によってさまざまな結論が出されましたが、拝領ができないという非常事態は想定されていないのです。現行のコロナ禍は、その聖体拝領の機会を信徒から取りあげているというのが重大で、これは歴史的事件といっても過言ではないでしょう。

「秘跡の記憶」で補う

その渦中、悩んだ信徒たちの慰めはどこにあるのでしょうか。その答えは一つしか思いつきません。日本のキリシタン教会の迫害下の模範のみです。

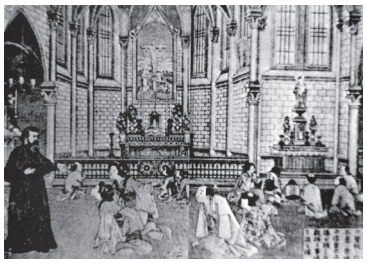
迫害の下、信徒は「聖体拝領」ができないどころか、教会さえ持てませんでした。多くの信徒が「聖体拝領」できないと悶々としている中、キリシタン信徒たちが工夫したことは、「ご聖体」の記憶をとどめ続け、信仰の記憶として決して手放さないという態度でした。実際の拝領を受けていなくとも、いずれ受ける日を希望しながら生きるという方法です。

これは「ゆるしの秘跡」にもいわれています。「サクラメント(秘跡)」を与える司祭がいない時には、「秘跡の記憶」で補うという方法で、潜伏キリシタンたちが口伝や筆写で伝えた教義書『こんちりさんのりやく』をもって秘跡の代用と考えていた事実や、長崎県の五島の長老たちが「御大夜(おたいや)」というクリスマスミサの模倣を代々伝えていたことから知られています。

「希求する心」こそ大事

つまり聖体拝領にとって最も大切なのは、「キリストとの交わり」への希求ということにほかならないということです。本当に「拝領を心待ち」にする者にとって、一時期途切れたとしても問題はありません。頻度の問題など二の次です。大事なのは「キリストとの交わり」を望むという態度です。迫害の下、教会もなく、ミサもない潜伏キリシタンにとって、「秘跡の記憶」こそ重要であり、そのことがのちに、大浦天主堂での「信徒発見」の奇跡につながりました。

ミサに行けない、聖体拝領から遠ざかっている、と心配することはありません。私たちには信仰の先輩たちが指し示した大きな伝統があります。次の聖体拝領が実現する時まで、「希求する心」を持ち続けることこそ、最もふさわしい、本来の意味での「準備」となることでしょう。



▲旧信者の子孫発見の図（大浦天主堂内でプチジャン神父とサンタマリア像にひざまずいて祈る潜伏キリシタン）

緊急事態宣言解除を受けて
聖イグナチオ教会の今後の対応

信徒の皆さま

2020年 5 月26日

主任司祭　英　隆一朗

東京都の緊急事態宣言が解除されました。それにあわせて、東京大司教より新たな指針が出ました。それによると、教会再開にむけてもう少し（3 週間ほど）様子を見るということです。当教会としては以下のようにします。

１．聖堂は開放

４つの聖堂は５月26日より開放します。聖体訪問などで聖堂を訪れる方は、各自が感染症対策を心がけてください。手洗いかアルコール消毒をして、マスクを必ず着用してください。沈黙でお祈りください。

特に席に座る際は、ソーシャルディスタンスを考え、距離を開けて座るようにしてください（座れる席に目印があります）。

高齢の方（65 歳以上）や基礎疾患のある方は、引き続き教会に来ることを自粛するよう、大司教より要請されています。高齢者と基礎疾患のある方が感染した場合、重症化のリスクがあるからです。一人ひとりがご自身の年齢と健康状態を考え、賢明な判断と責任ある行動をお願いします。

２．通常のミサと活動は引き続き自粛

大司教の指針に従い、すべてのミサと活動は中止のままです。公開ミサがないので、引き続き自分の分身として折鶴を教会に送ることができます。5 月末で今までのものをいったん回収し、6 月から新たなものを受け付けます（1 か月に 1 回程度入れ替えます）。

引き続き、主日ミサのライブ中継を続けます。そのため、**日曜日は主聖堂を閉鎖します。**

３．部分的再開に向けて

大司教より、教会再開の新たな指針が発表される予定です。それを受けて、イグナチオ教会独自の再開計画をお知らせします。元に戻るのではなく、部分的な再開になるでしょう。

今年度の教会テーマは、「新しい協働」です。当初の計画通りにはできませんが、今年度はこのテーマをどう生きていくか、祈りながら歩んでいきたいです。世間では新しい生活様式が求められていますが、信仰生活や教会生活にも新たな形が求められています。

この状況で、いかに祈りを深めるか、いかに福音を伝えるか、いかに共同体のつながりをもっていくのか。非常に条件付けられた状況の中で、皆さんの積極的な工夫が必要です。新しい発想で、新しい何かが求められています。皆で模索しながら、共に歩んでいきましょう。

金婚式・銀婚式を迎えられる方々へ

聖イグナチオ教会では、当教会所属の信徒で今年結婚生活50周年、25 周年をお迎えになる方々のために、バチカンが発行する「金婚式・銀婚式祝福記念証書」を授与できるように手配させていただいています。

ご希望の方は、案内チラシをご覧の上、申込書に必要事項を記入して、教会事務室に提出されるか、郵送またはＦＡＸにてお申し込みください。

申込締切は　８月２日（日）（厳守）

祝福記念証書は11月22日（日）10 時、結婚感謝ミサにおいて授与される予定です。

6 月の典礼と行事

5	（金）	初金曜日	
6	（土）		**献堂記念日（21 周年）**
7	**（日）**	**三位一体の主日**	
14	**（日）**	**キリストの聖体の祭日**	
19	**（金）**	**イエスのみこころの祭日**	
21	**（日）**	**年間第 12 主日**	
24	**（水）**	**洗礼者聖ヨハネの誕生の祭日**	
28	**（日）**	**年間第 13 主日**	**聖ペトロ使途座への献金**
29	**（月）**	**聖ペトロ聖パウロ使徒の祭日**	

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 6 月の教会行事は全て中止となりました。

5 月の宣教司牧評議会から

1．教会活動連絡会議幹事は、教会活動がすべて中止となっている状況下で特例として任期を延長します。
（活動再開まで延長、活動再開時に新たに任期設定）
2．すべてのミサと、教会活動、行事は引き続き中止とします。
（5月の教会活動連絡会議、6月の大掃除、司祭歓迎会、信徒総会、堅信式は中止します）
3．主日ミサ（日本語、英語、スペイン語）の動画を YouTube にて継続配信します。
5月中旬よりベトナム語ミサも YouTube にて配信を始めます。

前総長ニコラス神父ご帰天

前イエズス会総長で、上智大学教授、日本管区長も務めたアドルフォ・ニコラス神父は、5月20日、ロヨラハウスで帰天されました。84歳。5月23日主聖堂における非公開葬儀ミサでは「ニコラス神父の祈り」が捧げられ、24日「主の昇天」（祭日）非公開ミサでは司式説教の酒井陽介神父から総長時代のニコラス神父の言葉が紹介されました。

「キリンは長い首と大きく強い心臓を持つ。皆さんもキリンのように見渡し世界の状況に目覚め、勇気と愛をいっぱい持って創造的に生きなさい」。

ニコラス神父の祈り

主イエスよ、

私たちのどんな弱さを見て、それでも、あなたのミッションに協働するよう呼ばれたのですか？

あなたが、招いてくださったことに感謝を捧げます。世の終わりまでともにいてくださる約束をどうか忘れないでください。

しばしば、私たちは、あなたがともにいてくださることを忘れ、無駄に力を費やしたと落ち込むことがあります。

どうか、私たちの人生となすべきことにあって、今日も、明日も、そして、来たる未来も、あなたの存在を感じさせてください。

あなたに仕えるために差し出した私たちの人生をあなたの愛で満たしてください。

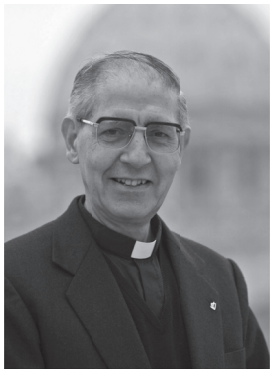
「自分たちのこと」だけにとらわれ、「自分のもの」に執着してしまう、共感と喜びに欠けた利己主義を私たちから取り去ってください。

私たちの知性とこころを照らし、私たちの思い描いたように、ことが進まないときでも笑顔でいられますように。

一日の終わりに、毎日の締めくくりに、あなたとの絆を思い起こさせ、日常の中に大いなる喜びと希望を見いだすことができるようお助けください。

私たちは、弱く、罪深いものですが、あなたの友なのです。

アーメン



1936年4月29日 スペイン生まれ。53年イエズス会入会、61年来日。67年司祭叙階。71年以降、上智大学教授、東アジア司牧研究所長（マニラ）、イエズス会神学院院長（上石神井）。93～99年イエズス会日本管区長。2008～16年イエズス会総長。18年ロヨラハウス。20年5月20日帰天。

主任司祭：英　隆一朗
助任司祭：ボニー・ジェームス
　　李　相源
協力司祭：ヘネロソ・フローレス
　　ハビエル・ガラルダ
　　グエン・タン・ニャー
　　マヌエル・シルゴ
ブラザー：吉羽　弘明
シスター：イベッテ・サンチェス
　　（セントロ・ロヨラ）
　　フロール・フロレーセ
　　（ジョン・デ・ブリッド　イングリッシュセンター）

ミサの時間　Mass

【平日 Weekday】主聖堂　Main Chapel
7：00 / 12：00 / 18：00

【日曜日 Sunday】主聖堂　Main Chapel
土曜 18：00/7：00 / 8：30 / 10：00 / 18：00
12：00（English）/ 13：30（Español）

【月の第 1 日曜日 1st Sunday】
Main Chapel　15：00（Việt Nam）
Our Lady's Chapel　12：30（Português）
　　16：00（Polski）
Xavier Chapel　16：00（Indonesian）

【月の第 3 日曜日 3rd Sunday】
Main Chapel　15：00（Việt Nam）
Our Lady's Chapel　16：30（Indonesian）

カトリック麹町教会
（聖イグナチオ教会）
〒 102 － 0083
千代田区麹町 6 － 5 － 1
TEL 03 － 3263 － 4584
FAX 03 － 3263 － 4585
http://www.ignatius.gr.jp

ホームページ　フェイスブック

マジスへのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。